

令和7年度 事業計画書



社会福祉法人 光風会

1. 事業の概要

1-1. 沿革

- 平成 16 年(2004 年) 9 月 社会福祉法人 光風会 設立
社会福祉法人光風会 理事長 光武 新人就任
- 平成 17 年(2005 年)11 月 特別養護老人ホーム 光の苑
(入所 60 床 短期入所 12 床) 開設
- 平成 29 年(2017 年)1 月 社会福祉法人光風会 理事長 武原 光志就任
- 平成 29 年(2017 年) 4 月 認知症対応型 通所介護棟 完成
- 平成 29 年(2017 年)10 月 短期入所生活介護 廃止
- 令和 元年(2019 年)10 月 短期入所生活介護 12 床 再開設

1-2. 所在地 壱岐市郷ノ浦町志原西触 1066 番地 1

1-3. 事業内容 介護老人福祉施設 60 名 短期入所生活介護 12 名

1-4 職員数 63 名 (正規職員 48 名、準職員 15 名)

2. 事業の方針

2-1. 光風会の基本方針

(1) 理念

1. 地域の人々とともに安寧に暮らす。
2. 認知症をともに生きる。
3. 最後のときまで寄り添う。

(2) 運営方針

1. ケアの質・信頼度で一步先んじる。
2. チームケアに徹し、問題解決能力を高める。
3. 自分が受けたいケアを行い、されたら嫌なケアはしない。

2-2. ケアの基本骨格

(1)認知症ケア

常にご本人の立場から認知症ケアの在り方を問い直し、新しいケアスタイルを確立する。

(2)看取りケア

ご本人とご家族を主体とし、納得のいく旅立ちを援助する。

(3)チームケア

高いチーム力を身につけ、選ばれる施設として課題解決能力を高める。

(4)コミュニケーション

上記3つのケアを進めるために基盤となる能力として、自身の対話力・対応力を磨く。

≪ 光風会は、壱岐島において、高齢者と介護者、働く世代に必要とされる施設として、在り続けることを使命と受け止め 運営してまいります。 ≫

3. R6 年度介護報酬改定 ～ 3 か年の事業計画の基盤

<p>(1)地域包括ケアシステムの深化・推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療と介護の連携の推進 2. 認知症の対応力向上 3. 感染症や災害への対応力向上 4. 高齢者虐待防止の推進 <p>(2)自立支援・重度化防止に向けた対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション、口腔、栄養の一体的取組み 2. 自立支援・重度化防止に係る取組みの推進 3. LIFE を活用した質の高い介護 	<p>(3)良質な介護サービスの効率的提供に向けた働きやすい職場づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護職員処遇改善 2. 生産性向上を通じた働きやすい職場環境づくり 3. 効率的サービス提供の推進 <p>(4)制度の安定性・持続可能性の確保</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 評価の適正化・重点化 2. 報酬の整理・簡素化 <p>(5) ほか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 書面掲示の見直し 2. 居住費の見直し
--	--

4. 課題と事業目標 New and Solid Team Building 新しく、強固なチームづくり

課題1 介護報酬改定への対応
課題2 新しい介護技術への対応
課題3 魅力ある施設・職場づくり

これらの課題に3か年で取り組む。
 新しい：世代交代・外国人ワーカー、ICT活用・・・
 強固な：高い問題解決能力、自律したスタッフ、誇りと自信を持てるケア

5. 事業の3か年計画



【1】 令和6年度の成果と課題

計画内容	成果	課題
①. 事業の安定	安定した稼働率と新規開拓 加算算定の拡充 感染症の最小最短の封じ込め	入退院・受診の増大 物価高騰 人材確保
②. 良好な職場環境	業務の効率化、整理 トランス型チームの実践	業務整理の具体化 働きやすい職場づくりの定着
③. 生産性向上	生産性向上委員会の発足 導入機器の検討 業務の課題整理の視点づくり	課題解決能力の向上 福祉機器の導入の準備
④. ケアの充実	自由な発想で行うアイデア 多部署による協働ケアプラン ICFに基づくアセスメント力 新リーダーの育成 各委員会によるケアの充実	技術、アセスメント力の充実 多職種連携とケアプラン実行力
⑤. CSの向上	医療介護連携 看取りケアの充実 ADL維持と向上	利用者の生活の充実 社会的にも健康な生活の保障

令和6年度の取り組みをもとに、見えてきた課題について実践しながらより確かな定着を図る

【2】 令和7年度の課題と計画

課題1 深める	より専門的、実践的なアプローチを導入し、ケアの手法を深める
課題2 広げる	多職種協働によりケアプランの実施範囲を広げる
課題3 仕組み化する	業務整理・多職種協働・アセスメントなどのシステム構築による仕組み化

① . 事業の安定～対象範囲を広げる

- ・ 安定した稼働率の維持、入院の予防
- ・ スムーズな入所、短期入所の利用案内
- ・ 他事業所、ご家族、医療機関との連携の強化
- ・ 人材確保（採用人員の確保、奨学生・留学生の確保）

② . 良好な職場環境～制度と方針を周知、実践範囲を広げる

- ・ 育児中の職員支援の推進と方針の周知
- ・ 有給休暇取得のしやすいシステムを整備
- ・ 業務整理と効率化により業務負担の軽減を目指す
- ・ 働きやすく、協力しあえる職場環境づくり

③ 生産性向上～システム構築による仕組み化

- ・ リーダーの課題解決能力の向上
- ・ 生産性向上委員会（PIC）の実働
- ・ 各部署における業務の見直し、効率化の推進
- ・ 多職種協働による業務担当の拡大、業務分担
- ・ 介護ソフト活用の推進
- ・ 各種 ICT の導入と試行運用

④ . ケアの充実～より専門性・実践力を深める

- ・ 多職種協働によるケア範囲の拡大
- ・ ICF に基づくアセスメントの視点を強化
- ・ 技術とアセスメント力を向上
- ・ 各委員会のケア力を維持、加算算定
- ・ 新リーダーによる委員会組織力の向上

※ICF：WHO の提唱する健康や生活機能の分類方法で、
疾病や障害だけでなくプラスの面や周りの環境因子
を含めた全人的な視点で評価する手法。

⑤ . CS の向上～

- ・ 利用者の生活範囲の拡大、質の保証
- ・ 動作能力など ADL 能力維持と向上
- ・ 最期まで生活を継続できる看取りケアの充実
- ・ ACP の実行機能をさらに充実
- ・ ご家族や地域への情報発信の強化

※ACP：アドバンスケアプランニング・家族や医療介護従事者
と繰り返し協議し、本人の意思決定を支援するプロ
セスのこと。『人生会議』とも呼ばれる。

【3】計画内容に関する具体的取組みの5項目

1. 業務効率化と多職種協働のケアプラン

- 目的 業務整理をして多職種がケアプランを実施できる時間を創出する
- 内容
 - ・各部署ミーティングにて、課題の見える化、明確化
 - ・全員参加型の課題解決・各部署の業務の見直し
 - ・主任会のチーム力を上げ、部署間の連携と調整を行う
- 効果
 - ・誰もが発言や提案ができ、自信と信頼を得る。
 - ・利用者の QOL 向上に関与し、やりがいと誇りを持つ
 - ・チーム内の協力体制により、幅広いケアを提供する。
- 目標
 - ・各部署のミーティングにおいて、主任主導での業務の見直しを討議する
 - ・各部署がこころみを実践し、互いにフィードバックする機会をつくる
 - ・多職種が提案しあえるカンファレンスにより多職種連携したケアプランを立案する。

2. ケアの充実と利用者の ADL 向上へのアプローチ、魅力ある職場づくり

- 目的 根拠と目的をもってアプローチすることでケアの質を上げ、自信をつける
- 内容
 - ・ICF を活用したアセスメントに基づいてカンファレンスを実施。
 - ・多職種協働でのこころみの充実
 - ・各委員会による専門的視点でのアセスメント実施とスキルアップ
- 効果
 - ・利用者の生活の充実
 - ・人材の確保（やめたくない職場、選ばれる職場）
- 目標
 - ・限られた人員での業務の遂行
 - ・利用者の ADL（動作能力、介護量）の維持・改善
 - ・入院の予防（転倒、誤嚥性肺炎、廃用症候群の予防）

3. 研修の重点化（次世代リーダー育成・認知症ケア・Dx デジタルトランスフォーメーション）

- 目的 新リーダーによるマネジメントの仕組み化
- 内容
 - ・認知症ケア研修：方針と内容の方向付けと計画立案
 - ・福祉機器導入目的に関する研修準備（PIC・テクノエイド委員会）
 - ・各種法定研修と訓練の実施に関する立案と実行
 - ・教育担当者に対する研修環境の整備
 - ・実習生・奨学生の受入れ体制の充実
 - ・コンプライアンス研修の実施（一覧参照）
- 効果
 - ・職員のケアに関する実践力の強化と自信づけ
 - ・次世代リーダーによる光の苑のケアの在り方の方向づけ
- 目標
 - ・リーダー格スタッフの養成、増強
 - ・福祉機器、ICT 導入の体制整備

4. 医療連携の強化

- 目的 医療依存度の高い利用者の安定的利用、新規利用者の獲得
- 内容
 - ・より医療依存度の高い利用者に対応する看取りケアのガイドライン
 - ・ACPの実行機能充実のための研修を実施し、看取りケアの質を向上
 - ・認知症に関する治療、観察力の強化、精神科との連携強化
- 効果
 - ・医療的側面からの施設運営へのサポート体制の確立
 - ・入退院時の連携により、安定した稼働率を維持
- 目標 医療依存度の高い利用者の入所生活の継続、受入れ体制の確立

5. 設備投資と積立計画

- 目的 時代の脅威に対応できる、持続可能な施設運営
- 内容
 - ・見守りセンサーと通信環境整備の計画策定
 - ・空調などの各種設備更新のための準備
 - ・補助金確保のための必要な組織体制づくり
- 効果
 - ・災害に強く、安全な施設づくり
 - ・事業の安定と計画的設備の更新
- 目標 設備等のための積立計画

【今後の情勢とニーズ】

- ・感染と災害に対応する業務継続システム
- ・物価高騰や人材確保
- ・新しい機器や設備の導入
- ・新しい人材と新しいリーダーの生まれる職場
- ・より魅力ある職場として成長する
- ・良質なケアの提供により信頼される施設

各種研修計画一覧

PIC：生産性向上委員会

	事故	感染	訓練	災害	拘束	虐待	褥瘡	PIC	その他各種研修
4月									新採用育成計画
5月		●	火災		●			●	排泄ケア研修
6月			AED						摂食嚥下研修
7月									認知症ケア
8月						●	●	●	
9月			●	●					育児休周知研修
10月		●	●						有休取得促進月間
11月	●							●	ハラスメント防止研修
12月									ターミナルケア研修
1月	●		火災						口腔ケア研修
2月		●	●		●	●		●	
3月			●	●					
【毎月】 全体ミーティング UL会 各部署・各委員会ミーティング 【随時】 基礎研修、教育担当者育成研修 【採用時研修】 各種マニュアル指導 事故対策・身体拘束廃止・感染対策・ 虐待防止・ハラスメント防止・災害訓練					【各委員会】 コンプライアンスに応じて計画実施 【施設外研修】 ユニットリーダー研修 認知症関連研修 デジタルテクノロジー関連研修 各学会等への演題発表				

ほか